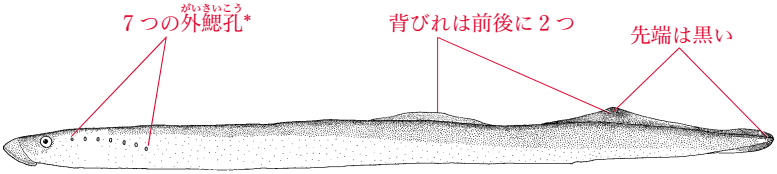
ヤツメウナギ目Petromyzontiformes　ヤツメウナギ科Petromyzontidae



1．カワヤツメ *Lethenteron japonicum*（Martens）　図版1

英　名　Arctic lamprey
露　名　тихоокеанская минога（チホオケアンスカヤ ミノーガ）
地方名（北海道）　ヤツメ、ヤツメウナギ
漢　字　川八目（かわやつめ）、八目鰻（やつめうなぎ）
アイヌ語名　ウクリペ、ヌクリペ、オクリペ、ウクルルペ、ヌプルペ

【形態】　ヤツメウナギ類は、厳密には円口類（えんこう）*と呼ばれる最も下等な脊椎（せきつい）動物の一群に属するが、一般には魚類に含めて扱われることが多い。体は細長く、円筒形（ウナギ形）で、全長*40～50cmになる。体の背部は暗青色で、腹部はやや淡色。体表は粘液質に富み、ぬるぬるしている。うろこはない。1対の眼と、円口類特有の外鰓孔（がいさいこう）*と呼ばれるえら穴が7対あり、これが八目鰻の名の由来。背びれは前後に2つあり、胸びれと腹びれはない。後方の背びれと尾びれおよび尻（しり）びれは連続している。後ろの背びれと尾びれの先端は黒い。口は吸盤状で両あごを欠き、鋭い歯を持つ。

生殖期には二次性徴*が現れ、体色は褐色を増し、前後の背びれは基部で連続するようになる。雄では肛門から生殖突起*が出現し、また雌では肛門直後から尻びれ状の隆起が生じる。変態*前のアンモシーテス*幼生*は、成体*と著（ずい）しく形態が異なり、眼が皮下に埋没し、体色は褐色で、口に歯はなく、頭巾（きん）状の唇を持つ。

【生態】　北海道、茨城県および島根県以北の本州、朝鮮半島東北部、沿海

地方、サハリン、シベリア、アラスカの河川に遡上(そじょう)*する。海で２～３年生活した後、成魚*は産卵のために川をさかのぼる。上・中流の瀬*の砂れき*底に、主に雄が円形の産卵床(しょう)*をつくり、雌雄が１尾ずつのペアとなって産卵する。石狩川では、５～６月に遡上してその年の夏に産卵するものと、９～10月に遡上して翌年の春に産卵するものとがある。直径1.2mmほどの卵は暗緑色で、弱い粘着性を持つ。

ふ化した幼生は川底の砂泥中で、植物プランクトンやデトリタス*を食べながら数年間生活する。全長が16～18cmに達すると、秋から冬にかけて変態して成体とほぼ同じ形になり、翌年の春に降海*する。成長の速い個体はふ化後２年で変態する。変態後、吸盤状に発達した口でほかの魚類の体表に吸着し、筋肉や赤血球を溶かして吸飲する。日本海や北太平洋でサケ・マス類への寄生*が確認されている。